〈資料〉

地域生活志向の精神看護学実習における学生が捉えた精神看護の役割

The Role of Psychiatric Nursing Understood by Students in Community-life-Oriented Psychiatric Nursing Practice

林世津子[1]　新榮こゆき[1]　浅沼瞳[2]　秋山美紀[3]　廣島麻揚[1]

1　東京医療保健大学　医療保健学部　看護学科
2　昭和大学　保健医療学部　看護学科
3　埼玉県立大学　保健医療福祉学部　看護学科

Setsuko HAYASHI[1], Koyuki SHINEI[1], Hitomi ASANUMA[2], Miki AKIYAMA[3], Mayo HIROSHIMA[1]

1　Division of Nursing, Faculty of Healthcare, Tokyo Healthcare University
2　Department of Nursing, School of Nursing and Rehabilitation Sciences, Showa University
3　Department of Nursing, School of Health and Social Services, Saitama Prefectual Unversity

要　　旨：目的：地域生活志向の精神看護学実習における学生が捉えた精神看護の役割を明らかにすること。
方法：2019年12月A大学看護学科４年生110名に目的・方法・倫理的配慮を説明し、実習レポートのコピー提出を依頼、記述内容を帰納的記述的に分析した。
結果：同意学生53名（回収率48.2％）。分析により137ラベル、29サブカテゴリ、９カテゴリ【人としてのその人を理解する役割】【信頼関係を形成し頼られる場となる役割】【対象の生活に焦点を当てアセスメントする役割】【対象の病状変化に気づき対応する役割】【多職種と連携し対象を支援する役割】【対象が望む地域生活に必要な能力獲得を支援する役割】【対象の自己理解を促す役割】【対象が強みを発揮しできることを支援する役割】【対象が自分主役の人生を送れるよう支援する役割】を抽出した。
結論：学生は、精神看護において看護職は主体的に活動するだけでなく、対象の主体的活動を支える役割があると捉えた。

Abstract：Purpose: The purpose of this study is to clarify the roles of psychiatric nursing as understood by students who attended community-life-oriented psychiatric nursing practice classes. Method: In December 2019, 110 fourth year undergraduate students of a university nursing department were asked to submit a copy of report on the nursing practice after being advised about the purpose and method of the study as well as ethical considerations. We conducted inductive descriptive analysis on the content of the submitted copies. Results: 53 students agreed and submitted a copy of their report (response rate: 48.2%). As a result of the analysis 137 labels were found, from which 29 sub-categories were extracted. Ultimately, nine categories of the roles were identified: to understand and appreciate the subject as a person; to serve as a space to be relied on after creating a relationship of trust with the subject; to make assessments focusing on the subject's lifestyle; to notice any change in the subject's medical conditions and respond to it; to support the subject by working together with various other related trades in the hospital and relevant organizations in the community; to support the subject in gaining the needed skills for the community life they desire to enjoy; to encourage the subject's self-understanding; to support the subject in demonstrating their strengths and doing what they are capable of doing;

and to support the subject to lead a life where they are the protagonist. Conclusion: The students realized that nursing staff in psychiatric nursing has a role to not only act on their own but to support the subject's initiatives for their independent activities.

キーワード：地域生活志向、看護の役割、精神看護学実習、看護学生

Keywords：community-life-oriented, role of nursing, psychiatric nursing practice, nursing student

Ⅰ．背景

A大学看護学科では2015年度にカリキュラムを変更（新カリキュラム）し、精神看護学実習は３単位135時間、病院実習５日間、デイケア実習２日間、作業所実習３日間と学内演習５日間で構成される実習へと変更された。入院する精神障害者を受け持ち、看護実践する機会は短くなった一方、地域生活を送る精神障害をもつ人々と対話し共に活動し、多くの時間を共有する。精神障害者のリカバリーを深く考え、地域生活の実現と継続を支える看護を学ぶ地域生活志向の実習である。

筆者らは、この地域生活志向の精神看護学実習における学びの構造を明らかにし、従来型の実習と比較検討した[1)]。地域生活志向の精神看護学実習における学びの全体像を見出したものの、そこからは、学生が精神看護の役割をどのように理解しているかは十分に把握しきれなかった。精神看護の役割理解は、将来看護職として活動するときの拠り所となると考える。そこで、実習最終日提出のレポートから、学生が捉えた精神看護の役割を明らかにすることを目的とし、実習指導における今後の課題について検討することとした。

Ⅱ．方法

１．対象

Ａ大学に在籍し、2018年10月～2019年７月に地域生活志向の精神看護学実習を履修した４年生110名である。

２．データ収集時期と収集方法

本研究のデータは、実習最終日に提出したレポートとし、テーマは「精神疾患を持つ人がその人らしく地域で生活するための看護の役割」であった。対象に対し、地域生活志向の精神看護学実習の単位認定後の2019年12月に、研究の目的・方法等を説明した。10日間の提出期間を設け、研究の主旨に賛同し同意した場合、無記名で指定のボックスにレポートのコピーを提出するよう依頼した。

３．分析方法

帰納的記述的分析とした。提出されたレポートコピーの記述から「～が役割である」「役割は～である」と表現されている１文を抜き出し、意味内容が変わらないように要約し、１ラベルとした。なお、短文のため意味内容が読み取るのが難しい場合は、前後の文章から役割を説明しているものを加えて、１ラベルとした。文章構成上、複数同じ役割が登場することがあり、その場合は、単に繰り返しているものと捉え、ラベルは１つとした。共通するラベルを集め、意味内容からサブカテゴリ、カテゴリへと抽象化した。カテゴリ化は、帰納的記述的分析の熟練者および実習指導に携わらない者を含めた複数の共同研究者で行い、信頼性・妥当性を確保した。

４．倫理的配慮

単位認定された対象者に対して、研究目的・方法、結果の公表、協力の有無が成績に一切影響がないこと、個人が特定されないこと、データの管理方法について文書と口頭で説明した。レポートコピーの提出をもって研究に同意したものとし、期日を設けて提出ボックスを用意した。なお、研究者が在籍する東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会の承認（教-31-20B）並びに、昭和大学保健医療学研究科倫理委員会の承認（504）を得て実施した。

Ⅲ．結果

学生53名から同意があった（回収率48.2％）。抽出されたラベルは137、そこから29のサブカテゴリ、９のカテゴリが抽出された（**表１**）。

カテゴリは、【人としてのその人を理解する役割】【信

表1　地域生活志向の精神看護学実習において学生が捉えた精神看護の役割

行為主体による分類	カテゴリ	サブカテゴリ（ラベル数）	ラベル例
看護職が主体的に行う役割	人としてのその人を理解する役割	関わりを通してその人自身を理解すること(4)	「関わりを通して、疾患・人生・家族など、対象者そのものを理解すること」
		対象の様々な面を総合して理解すること(4)	「対象者を家族歴・現病歴、主観・客観を合わせて全体像を捉えること」
		生活者として対象を理解すること(3)	「病を持った人ではなく、同じように生活しているその人をみること」
		その人の強みを理解すること(3)	「その人が得意としていることや自信があることを理解すること」
	信頼関係を形成し頼られる場となる役割	対象にとって信頼できる存在になること(6)	「対象にとっての理解者であり信頼できる人になること」
		対象※が安心して頼れる場を提供すること(5)	「いざというときに安心して頼れる環境をつくること」
		対象の主観的体験を共感的に理解しようとすること(2)	「当事者の痛みや辛さを理解しようとし、一緒に悩んだり気持ちを共有すること」
	対象の生活に焦点を当てアセスメントする役割	生活上の困難を見極めること(3)	「本来のその人を知り、生活のどこに困難感を抱いているのか見極めること」
		身体・精神状態と生活のつながりをアセスメントすること(2)	「身体・精神状態を継続的に把握し、生活とのつながりをアセスメントすること」
	対象の病状変化に気づき、対応する役割	病状の変化に気づくこと(5)	「対象者に積極的に関わり不安表出しやすくし、病状の変化に早く気がつくこと」
		精神症状の緩和・軽減を図ること(3)	「急性増悪した症状を軽減・緩和すること」
		何かあったとき対応できる体制を整えること(2)	「生じるリスクを念頭に何かあった時対応できる環境を整えること」
		対象の変化をアセスメントし対応すること(2)	「短時間で色々な角度から対象者を捉え、病状の変化に気づき、対応すること」
	多職種と連携し対象を支援する役割	地域の支援者に対象の情報提供し、支援のバトンをつなぐこと(6)	「地域の支援者に情報提供し、対象が望む地域生活が安定・安心できるように支援をつなぐこと」
		多職種と連携し、対象の望む生活を目指し支援すること(6)	「対象者と関わる多職種と情報共有し、望む地域生活が継続できるように支援すること」
		対象※に地域生活の助けになる情報を提供すること(6)	「地域の支援システムや施設を説明し、その人に合った情報を提供すること」
		地域支援機関と連携し、対象の望む生活を目指し支援すること(3)	「目標達成できるように、病院と地域の支援者が連携し、様々な角度から生活を支援すること」
対象の主体的活動を支える役割	対象が望む地域生活に必要な能力獲得を支援する役割	日常の出来事に自ら対処できるように支援すること(11)	「地域生活のなかで自己対処できるように見守ること」「多様な経験ができる機会を設け、失敗した時はそばに居て支えること」
		自ら症状コントロールできるように支援すること(7)	「疾患を持つ人が自分で服薬管理し、再発予防できるように支援すること」
		対人関係スキルを高められるように支援すること(2)	「患者が社会で対人関係を築く際の練習台になること」
	対象の自己理解を促す役割	疾患をもつ自分と向き合えるように、自己理解を支援すること(6)	「自分で対処するため自分自身のことを理解できるように支援すること」
		自分について客観的に理解できるように支援すること(5)	「悩んでいるのは一人でないことや症状悪化時の心境など、自分を客観視できる機会をつくること」
		自分に気づけるように、疾患・薬に関する情報を提供すること(4)	「自分を知り、薬や病気の知識を持てるように教育的支援を行うこと」
	対象が強みを発揮しできることを支援する役割	強みを見出し、発揮できるように支援すること(14)	「強みを知り持てる力を最大限に発揮できるように支えること」
		できることできないことを見極め介入すること(7)	「対象者のできることできないことを見極め必要な介入のみすること」
		自信を持てるように支援すること(4)	「自分の力を信じられるように援助すること」
	対象が自分主役の人生を送れるよう支援する役割	自分の目標を見いだせるように支援すること(6)	「対象の限界を決めず可能性を信じて共に目標をたてること」
		対象の目標を実現できるように支援すること(4)	「その人がどうありたいか目標を知り実現できるように支えること」
		対象の地域生活のありさまを見守ること(2)	「福祉施設では、疾患と向き合い対処しながら地域生活できているか見守ること」

※家族を含む

頼関係を形成し頼られる場となる役割】【対象の生活に焦点を当てアセスメントする役割】【対象の病状変化に気づき対応する役割】【多職種と連携し対象を支援する役割】【対象が望む地域生活に必要な能力獲得を支援する役割】【対象の自己理解を促す役割】【対象が強みを発揮しできることを支援する役割】【対象が自分主役の人生を送れるよう支援する役割】が生成された。これらは、看護職が主体的に行う直接的な役割と、対象の主体的活動を支える間接的な役割という行為主体の違いが認められた。

Ⅳ．考察

1．学生が捉えた精神看護の役割

看護職が主体的に行う役割のうち、【人としてのその人を理解する役割】【信頼関係を形成し頼られる場となる役割】は、精神障害者に関わる専門職すべてに共通する役割である。多職種が共通して、問題だけでなくストレングスを含めたその人の理解に努め、対象者との関係を重視する姿から見出したと考えられる。【対象の生活に焦点を当てアセスメントする役割】と【対象の病状変化に気づき対応する役割】は医療の視点のものであり、他職種の働きや視点と照らし、看護の独自性として見出したと考える。さらに、精神医療福祉機関の連携の実際や課題を多面的に知ることになり、病院・地域関係機関の【多職種と連携し対象を支援する役割】の重要性を理解したと考える。

対象の主体的活動を支える役割の【対象が望む地域生活に必要な能力獲得を支援する役割】【対象の自己理解を促す役割】【対象が強みを発揮しできることを支援する役割】【対象が自分主役の人生を送れるよう支援する役割】は、非常にラベル数が多かった。心理教育、当事者研究、自助グループ活動が活発なデイケアの経験、作業所で対象と共に活動した時間、レポートテーマの影響が考えられる。精神障害者の地域生活支援では、対象者自ら課題を解決したりニーズを充足できるように、対象の主体性尊重が重要である。一人の患者と関わる病棟実習の経験と照らし、看護職は裏方として環境を整え、自己決定を支援していることを理解したためと考えられる。

2021年「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係わる検討会」報告書[2)]において、共生社会の実現を目指す地域包括ケアシステムの構成要素が明記された。学生が捉えた精神看護の役割のうち、【信頼関係を形成し頼られる場となる役割】【対象の病状変化に気づき対応する役割】は、何かあったときに頼れる精神医療である必要を意味する。早期に不調の兆候に気づき精神医療につなげることは、構成要素である「精神科医療の提供体制」の理解を示唆する。対象の主体的活動を支える役割は構成要素の「社会参加」の内容に一致し、「当事者・ピアサポーター」による支援の後方支援と考えられる。実習がねらう病院ケアから地域ケアへの移行に対応できる学びを生み出すとともに、精神障害にも対応する地域包括ケアシステムの人材育成に貢献すると考える。

2．実習指導における課題

デイケア・作業所での実習拡充が、学生の今後地域に広がる精神看護の理解と、果たすべき役割の認識を高めたと推測できた。一方で、看護職が主体で行う役割のラベル数は対象の主体的活動を支える役割より少なく、学生の医療的視点が弱い可能性が示唆される。つまり、精神状態のアセスメントおよび精神科急性期看護の学修不足が懸念される。その人らしい地域生活を実現には、対象が精神病状態から早く抜け出せるように、看護職がイニシアティブをとることも欠かせない。実習前提科目と連動させ、学修強化を図る必要がある。

その際、看護職は対象が望む地域生活を実現するために、対象の保護やリスク管理が過剰にならないように注意が必要である。看護職は秩序を守りリスク回避を重視しやすいとの指摘[3, 4)]もあり、人権擁護と相反することが多い。どのような場にあっても安全管理と人権擁護をどう折り合いをつけ援助するか、高い倫理観を養うことも重要である。

また、臨地において学生は、精神障害を持つ人々との対話から学ぶ[5)]だけでなく、実習で出会う看護職・多職種の言動、働く姿を実によく観察し学ぶことも示された。対話が起きる実習環境を提供し、臨地において質の高い看護や支援を探究し続ける姿を示せるように、大学と実習指導者との連携の重要性も示唆される。最後に、本結果は一部の学生から提供されたデータに基づいているため、学生の捉えた精神看護の役割をすべて表しているとは言い切れない。精神看護の役割は、対象者のニーズと社会の要請により変化することから、現状の役割全体を理解するには、当事者の声を聴取する必要がある。

謝辞

研究に賛同しデータ提供にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝申し上げます。

文献

1）林世津子，新榮こゆき，浅沼瞳，秋山美紀，廣島麻揚．地域生活志向の精神看護学実習における学びの構造～3年次・4年次の学びから～．東京医療保健大学紀要 2020；15（1）：1-8.

2）厚生労働省．精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係わる検討会報告書（令和3年3月18日）．2021；1-32. https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000755200.pdf,（参照2021-12-18）．

3）松村麻衣子．入院治療に関わる看護職の役割と専門性．日本精神神経学雑誌 2018；120（6）：529-536.

4）林亜希子．外来治療とアウトリーチにおける看護師の役割．日本精神神経学雑誌2018；120(6)：521-528.

5）前掲書1）5-6.